

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2007.1.1～1.31)

## □刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』579号（2007年2月）

## □図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	28	20	48
受 贈	47	2	49
合 計	75	22	97

## □閲覧サービス

### 閲覧

開館日数 20日  
 閲覧人員 24名  
 貸出図書 81冊

### コピーサービス

学外 22件 2208枚  
 学内 20件 2244枚

## 日 誌

9日 仕事始め

13日 共同研究プロジェクト「福祉国家と家族政策」研究会

テーマ：「ドイツの家族政策の現状と動向」  
 講師：斉藤純子氏（国立国会図書館海外立法情報調査室主任調査員）

17日 運営委員会

議題①次期運営委員の選出について  
 ②研究員総会について  
 ③兼任研究員の採用について  
 ④その他

全金南大阪資料整理打ち合わせ

23日 事務会議

24日 研究員会議  
月例研究会

テーマ：「非正規雇用の拡大とその問題点  
 ー労働基準の切り下げに関する一  
 考察」

報告者：永田瞬

戦後労働運動研究会

「担当年の収録資料について」（五十嵐仁），  
 「別巻について」（芹沢寿良，早川征一郎）

27日 現代労使関係・労働組合研究会（第31回）

内容：森ます美著『日本の性差別賃金』、遠藤公嗣著『賃金の決め方』の検討  
 （土屋直樹氏，佐藤静香氏）

加齢過程における福祉研究会

テーマ：「地域包括支援センターの経験と課題」

講師：林滋治氏（八王子中野地域包括支援センター）

30日 「福祉国家と家族政策」研究会

テーマ：「オランダの『家族政策』の動向」  
 講師：廣瀬真理子氏（東海大学教養学部教授）

31日 見学来所：全明赫氏（韓国聖公会大学民主資料館副館長）他一行6名

大原社会問題研究所雑誌 No.582（2007年5月号）

2007年5月25日発行

定価 1,000円（本体952円），年間購読料12,000円

編集（兼）発行人 法政大学大原社会問題研究所

所長 相田利雄

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042（783）2307

## 投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

### 投稿規定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

#### 【原稿送付先】

〒194-0298 東京都町田市相原4342  
法政大学大原社会問題研究所  
『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

### 論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

#### 1 一般的な原則

- ① 横書きとする。
- ② タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
- ③ 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
- ④ 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
- ⑤ 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。

#### 2 注記の方式

##### ■日本語の図書・論文の場合

- A. 日本語で書かれた図書については、①著者名、②書名（書名は『 』で囲む）、③出版社名、④発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
- B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「——他」の方式も可とする。
- C. 論文については、①執筆者名、②論文名（「 」で囲む）、③掲載雑誌名（『 』で囲む）、④巻号、⑤発行年月日の順に書く。
- D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

##### ■欧文の図書・論文の場合

- A. 欧文の図書については、①著者名、②書名、③発行地（あるいは出版社名）、④出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
- B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
- C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
- D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上